資料４

「長崎市中央部・臨海地域」

都市再生委員会（第２回）資料

都市再生に向けた基本方針（案）と想定される主なプロジェクト

１．都市再生に向けた基本方針

１）　地域の目指すべき姿

（現状・特性）

○　長崎県及び長崎市においては、人口の減少が著しく、特に長崎市においては２５年後には２６％減という九州他都市と比較して大きな人口減少が予想されており、地域の活力を維持・向上するうえで厳しい状況にある。

○　海外と国内をつなぐゲートウェイであり平和の発信拠点でもある「国際観光文化都市」として発展してきた長崎においては、多様な歴史・文化資源を生かした観光は、農業・水産業を大きく上回る経済規模を有し、地域経済への波及効果も大きく、長崎の経済を牽引する主産業となっている。

○　観光客総数は減少傾向にあるものの東アジアからの観光客は増加傾向にあるなかで、九州新幹線西九州ルートの整備、国内最大級の松が枝国際観光船ふ頭の整備、九州横断自動車道（長崎～長崎多良見間）の四車線化などの国内外への広域交通機能の強化が進められており、世界遺産登録の動きなど歴史・文化を初めとする地域資源の魅力の向上とともに、観光・交流人口拡大のポテンシャルを有している。

（目指すべき姿）

～国際ゲートウェイ機能の再生・強化による
国際観光文化都市・長崎の再生～

○　新幹線整備をはじめとする広域交通機能の強化を大きなチャンスと捉え、その効果を最大化させることにより国内外からの交流人口を拡大し、その経済波及効果により、「国際観光文化都市」としての長崎の活力の再生・向上を目指すこととする。　また、その効果を県内各地に波及させることにより長崎県全体の活力の再生・向上を目指すこととする。

○　広域交通機能の強化を地域活力の再生・向上につなげるためには、長崎を単なる通過点ではなく、滞留し、活動し、交流し、情報発信する場とす

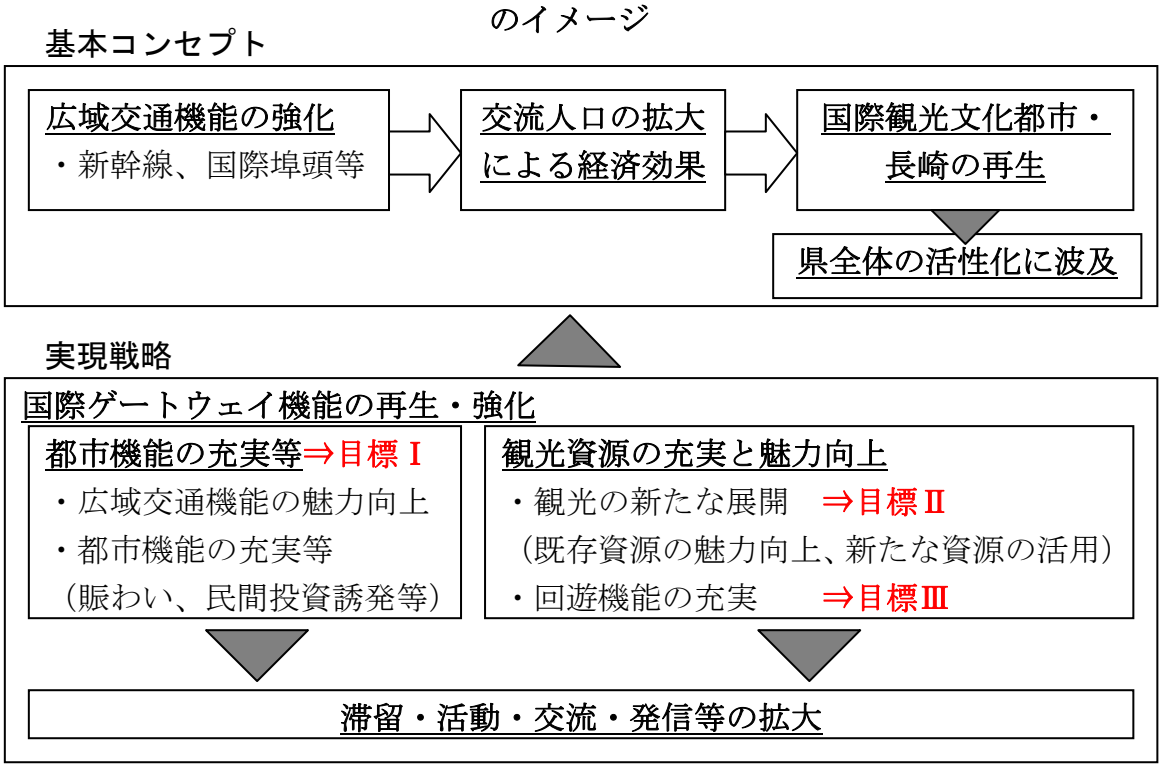
ることが必要であり、そのためには、観光資源の充実と魅力向上はもとより、広域交通機能の魅力向上や、宿泊・コンベンション・情報提供等の各種の都市機能の充実など、国際ゲートウェイ機能の再生・強化が求められる。

○　国際ゲートウェイ機能の再生・強化は、幅広い分野での新たな需要を創出し、これを牽引力にして新たなまちの賑わいを創出することでさらなる民間投資を誘発し、訪れる人にとっても住む人にとっても魅力と活力のあるまちづくりを進める。

○　交流人口拡大の前提となる観光資源の充実と魅力向上については、観光の発祥の地として観光の原点に立ち返り、二つの世界遺産候補など長崎特有の「歴史」「文化」「景観」「商業」「平和」等のこれまで活用されてきた資源を磨きあげていくとともに、「産業」「医療」などを新たな観光資源として活用するなど、観光の新たな展開を目指す。

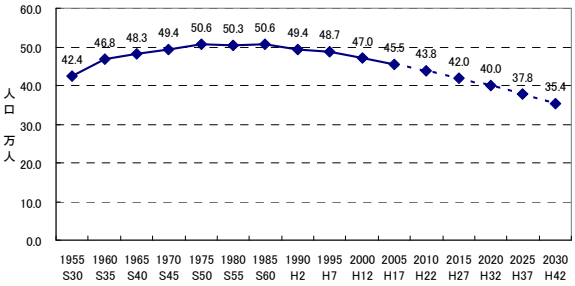
○　また、様々な観光資源や都市機能を有機的につなぐことにより観光地として、また居住地としての魅力を向上させることが不可欠であり、そのための回遊機能の充実を図る。

「国際ゲートウェイ機能の再生・強化による国際観光文化都市・長崎の再生」のイメージ

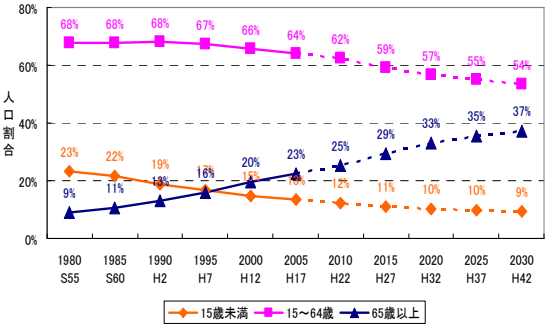


長崎市の人口将来予測

人　　口



年 齢 別 人 口

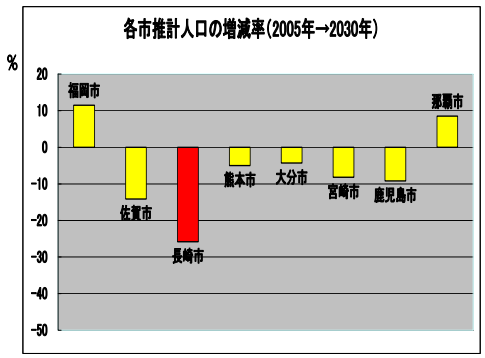


長崎市の人口（旧7町分を含む）は、1985（昭和60）年の50.6万人を境に減少に転じている。

長崎市の人口構造は、65歳以上の高齢者の人口割合が増加し、15歳未満及び15歳～64歳の人口割合が減少しており、少子・高齢化が進行している。

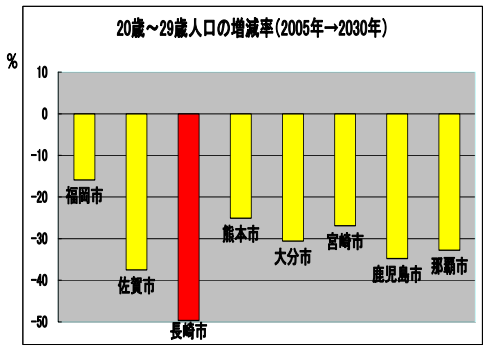
【20年後の予測】
・人口減少率は約22%（H17年45．5万人→H42年35．4人）
・65歳以上の高齢者の占める割合は約37%（H17年23%→H42年37%）

出典：1955（S30）～2005（H17）－国勢調査
2010（H22）～2030（H42）－2005（H17）国勢調査を基準年とした「国立社会保障・人口問題研究所」による独自推計（H20．12公表分）



	福岡市	佐賀市	長崎市	熊本市	大分市	宮崎市	鹿児島市	那覇市
全人口増減率　%	11.5	-14.1	-25.8	-5.0	-4.3	-8.2	-9.2	8.5

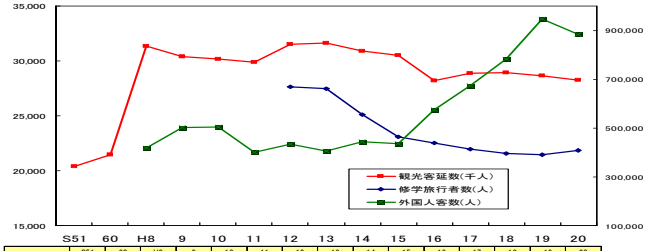
（国勢調査に基づく長崎市による推計 ※H19.12月推計）



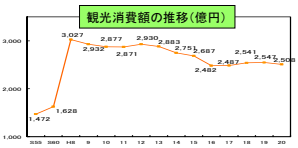
	福岡市	佐賀市	長崎市	熊本市	大分市	宮崎市	鹿児島市	那覇市
20-29歳増減率　%	-15.9	-37.5	-49.7	-25.1	-30.6	-26.9	-34.8	-32.8

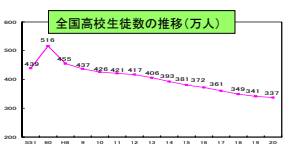
（国勢調査に基づく社会保障・人口問題研究所による推計（合併前市域）　※H15.12月推計）

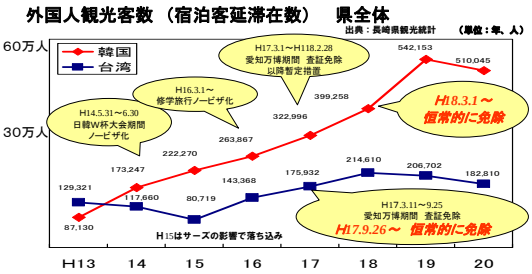
観光客数等の推移



	S51	60	H8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
観光客延数(千人)	20,377	21,442	31,339	30,413	30,175	29,913	31,511	31,631	30,908	30,483	28,208	28,900	28,906	28,641	28,241
修学旅行者数(人)	-	-	-	-	-	-	869,885	661,703	555,167	463,165	439,008	413,807	395,715	390,768	408,732
外国人客数(人)	-	-	419,067	503,100	503,304	399,998	433,724	405,424	442,653	436,505	575,223	672,761	783,212	945,870	883,602







中国　個人ビザの解禁（H21．7．1）

集中的な誘客対策を実施
○三大市場（北京、上海、広東）向け情報発信
○富裕層向けの商品販売強化

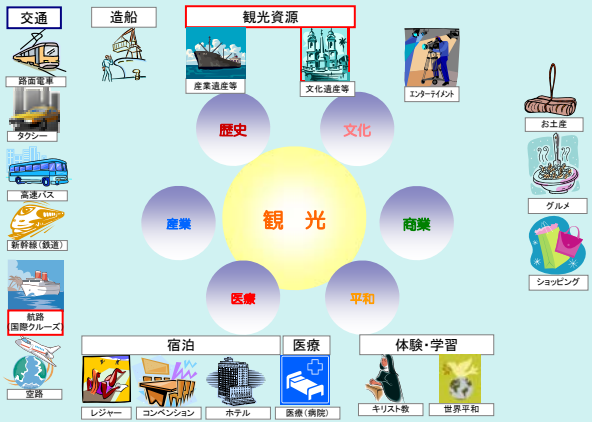
これからの観光と長崎の都市再生

- 観光発祥の地である長崎が新たな観光を提案する

「観光」という言葉は、中国の四書五経の一つ「易経」の一節、「観国之光、利用濱于王」に由来し、「地域のすぐれたものを観ること、観せること」を意味する。
日本では、１８５５年、長崎の海軍伝習所にオランダから送られた蒸気船にこうした意味を込めて「観光丸」と命名されたのが、観光という言葉のはじまりであり、長崎は観光の発祥の地といえる。

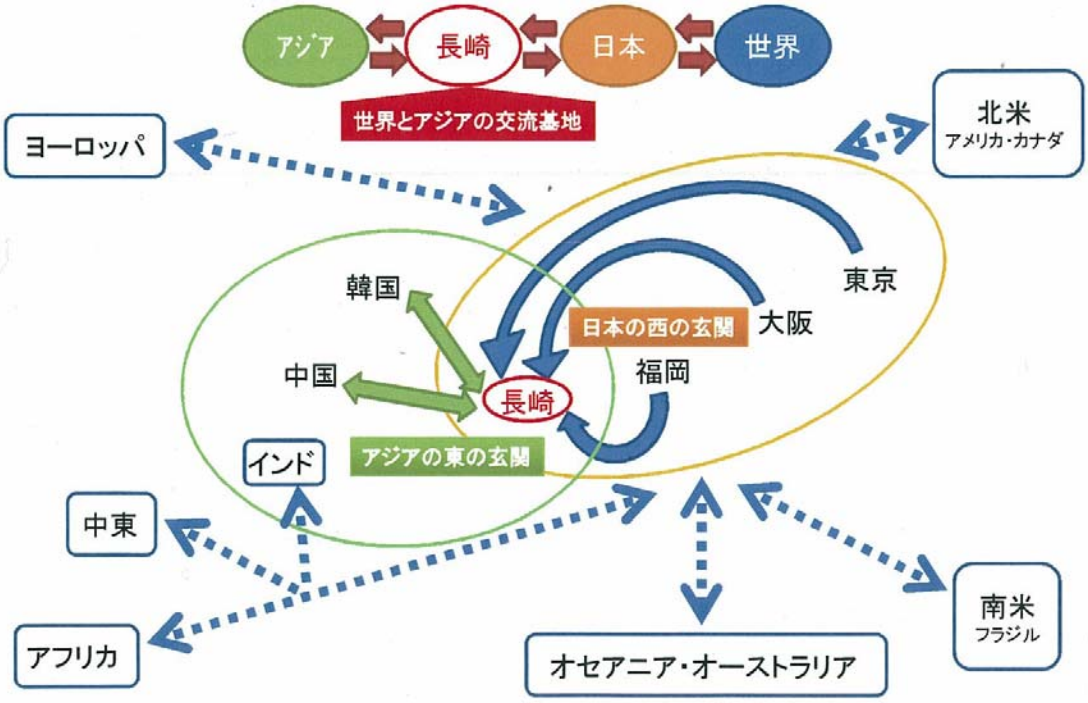
- 長崎が目指す観光とは、「歴史」・「文化」・「商業」・「産業」・「平和」・「医療」等、広く捉えるという視点が大事
- この新たな観光を支えることができるまちに「長崎市中央部・臨海地域」を再生する

6つのキーワードと集客交流産業のイメージ



長崎が目指す国際ゲートウェイ機能

長崎は日本とアジアの「人・物・技術・情報」の交流拠点



２）長崎市中央部・臨海地域の整備目標と整備方針（案）

○　国際ゲートウェイ機能の再生・強化による国際観光文化都市・長崎の再生を目指して、「目指すべき姿」で示した流れに従い、以下の３つの目標を掲げ、この目標を達成するための方策として５つの整備方針を設定する。

○　具体的な施策については、開発と保全、ハード施策とソフト施策を、行政と民間が一体となって、バランスよく総合的・一体的に進めることとする。

Ⅰ　国際ゲートウェイ機能を支える都市機能の充実等

長崎を単なる通過点ではなく、滞留し、活動し、交流し、情報発信する場とするため、(観光資源の充実と魅力向上以外に)、広域交通機能の魅力向上、各種の都市機能の充実が必要。

これにより、幅広い分野での新たな需要を創出し、これを牽引力にまちの賑わいの創出、民間投資の誘発を図り、観光客・居住者にとって魅力と活力のあるまちづくりを進める。

①　新幹線と国際・離島航路の接続等による広域交通機能の魅力向上

- 新幹線長崎駅と国際・離島航路を直結させることにより、広域交通機能の利便性を向上する。
- 長崎駅周辺等において周辺地域のまちづくりとの連携を強化し、拡大する交流人口をまちなかへ誘導する。
- ツアー企画等のソフト施策により、東アジア地域を中心とする外国人観光客や国内観光客の誘致を促進する。

②　官民一体となった都市機能の強化と新たな需要の創出等

- 遊休地の活用、老朽ビルの再開発、街並み整備・景観保全等により、安全・安心で快適な都市としての魅力を高める。
- 再開発等に関連して、宿泊・コンベンション・情報提供等の都市機能の充実を図るとともに、雇用の場の確保に努める。

Ⅱ　多様な歴史・文化・平和などの観光資源の保全・再生・創造

交流人口拡大の前提となる観光資源の充実と魅力向上には、まず、観光の発祥の地として観光の原点に立ち返り、これまで活用されてきた資源を磨きあげていくとともに、新たな観光資源を活用するなど、観光の新たな展開を目指す。

③　世界遺産候補など多様な歴史・文化資源等の保全・再生

- 多くの観光客を誘致するため、長崎特有の歴史・文化、食、景観等様々な観光資源をさらに磨き上げ見せていく。
- 特に、世界遺産候補、出島などの遺産を後世に引き継ぐため、それらの保全・再生と、周辺景観の保全を図る。
- 核廃絶と世界恒久平和を願う最後の被爆地長崎市として、世界中の人々と学習交流や全世界に向けた平和情報の発信を推進し、平和発信拠点としての集客を図る。

④　新たな視点での観光創造

- 産業（造船や環境分野でのものづくりの技術、工業・工場景観等）や医療（滞在型メディカルケアー等）を新たな観光資源として捉え、その施設整備やツアー企画等を促進する。

Ⅲ　観光資源と各拠点的地域を円滑に結ぶための「回遊性の向上」

観光資源の充実と魅力向上の一環として、観光資源や都市機能を有機的につなぎ観光地・居住地としての魅力を向上させるため、回遊機能の充実を図る。

⑤　道路・公共交通・歩行者動線等のネットワーク整備と回遊コースの充実・開発

- 観光客、県民、市民が長崎駅等の主要な交通拠点や点在する観光拠点・生活拠点を円滑に往来できるよう、公共交通の機能強化や歩行環境の向上を図るとともに、環境負荷の少ない公共交通の利用促進や回遊コースの整備・強化を図る。

○　これら目標の実現に向けては、長崎の特徴である「長崎の大景観（山の上からのパノラマのほか、海から見上げたまちと緑と空かのひろがり、まちから海・山への眺望など多様な景観）」や「環境負荷の少ない都市構造」を活かして取り組むことを基本とする。

Ⅰ　国際ゲートウェイ機能を支える都市機能の充実等

①新幹線と国際・離島航路の接続等による広域交通機能の魅力向上

【現在進行中の主なプロジェクト】

・東アジアと長崎、国内と長崎をつなぐ広域交通機能の強化

○ 九州新幹線西九州ルート（長崎ルート）の整備

○ 長崎自動車道長崎大分線（長崎～長崎多良見）の４車線化

・陸・海の玄関口としてふさわしい拠点の整備

○ 長崎駅周辺土地区画整理事業

○ 松が枝国際観光船ふ頭の整備

・アジアを巡るクルーズの誘致等

○ 外国船入港時のおもてなし

【想定される主なプロジェクトのアイデア】

・広域交通機能間の接続強化

△ 新幹線と国際航路を接続するための整備

△ 新幹線と離島航路を接続するための整備

・陸・海の玄関口としてふさわしい拠点の整備

△ 新幹線長崎駅からの動線確保（歩行者デッキ等）

・海・山への眺望確保を重視した施設等の整備

△ 新幹線長崎駅からの景観確保（海が見えるホーム）

・アジアを巡るクルーズの誘致等

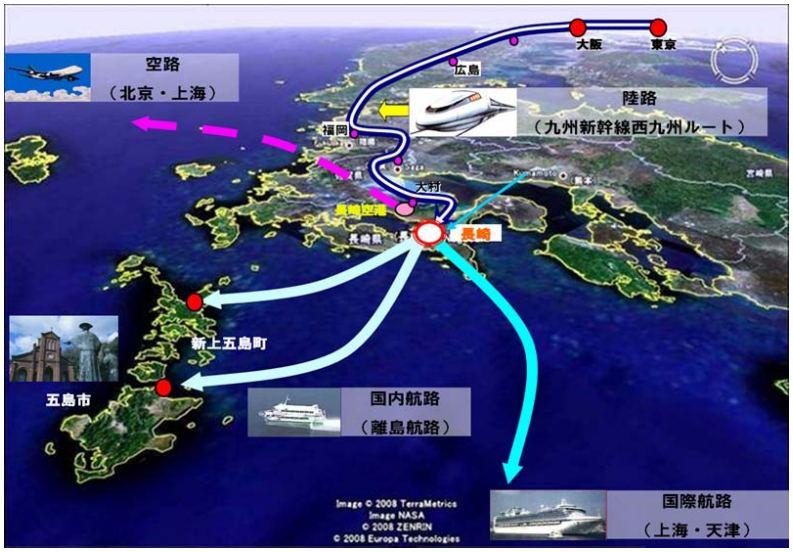
△ フライ＆クルーズ、レール＆クルーズの推進

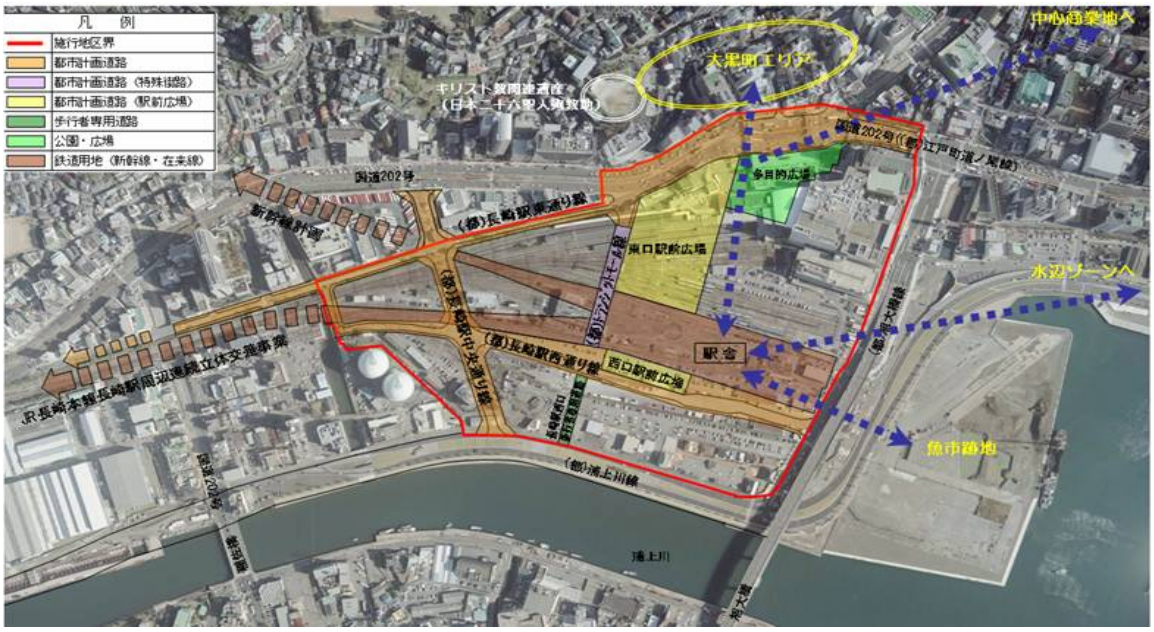
△ 中国マネーカード銀聯の利用拡大

△ 女神大橋のライトアップの工夫(国際観光船寄時の対応)

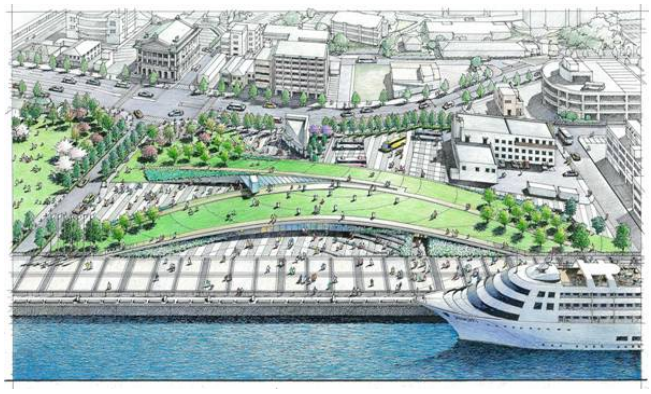
・離島への観光客の誘導など、県全体の観光振興の促進

△ 長崎を起点としたツアー企画等ソフト施策の推進（世界遺産関連での五島・上五島など）





長崎駅周辺の整備（導線の確保）



松が枝国際観光船ふ頭のターミナルビルと緑地の整備　　大波止旅客ターミナル

広域交通機能間の接続強化のイメージ

○新幹線と国際航路を接続するための整備

・松が枝国際観光船ふ頭まで路面電車の延伸
・シャトルバス等による所要時間の時間短縮

○新幹線と離島航路を接続するための整備

・魚市跡地からジェットフォイルを発着させる
・シャトルバス等による所要時間の時間短縮
・大波止旅客ターミナルから長崎駅に直結する動く歩道の設置

中国人クルーズ客の浜んまちアーケードツアー（左：インフォメーション、右：両替所）

②官民一体となった都市機能の強化と新たな需要の創出等

【現在進行中の主なプロジェクト】

・長崎駅周辺での拠点整備

○ 長崎駅周辺土地区画整理事業

○ ＪＲ長崎本線連続立体交差事業

・松が枝周辺での拠点整備

○ 松が枝国際観光船ふ頭の整備（再掲）

【想定される主なプロジェクトのアイデア】

・公有地等を活用した拠点整備

△ 丸尾地区の公有地の活用（稲佐周辺）

△ 県庁舎・県警跡地活用計画

△ 県庁舎建設計画

・民間再開発による魅力向上

△ 民間の遊休地等での開発

△ 老朽化したビルの再開発

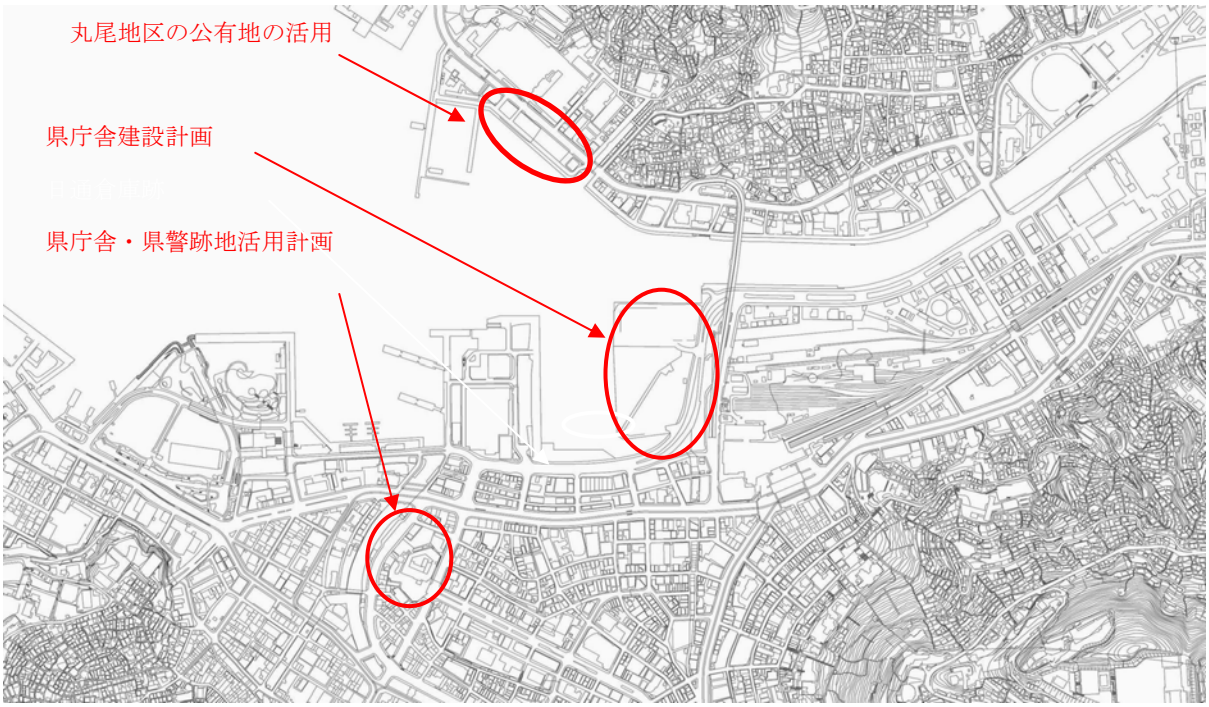
・集客交流機能の強化

△ 総合インフォメーションセンター整備（観光・交通・物産等）（長崎駅周辺）

△ コンベンション施設の整備

△ ホテルの国際化対応など宿泊施設のグレードアップ

ＪＲ長崎本線連続立体交差事業



丸尾地区公有地　（現在は駐車場と緑地として活用）

Ⅱ　多様な歴史・文化・平和などの観光資源の保全・再生・創造

③世界遺産候補など多様な歴史・文化資源等の保全・再生

【現在進行中の主なプロジェクト】

・歴史文化資源の保全と整備

○ 出島和蘭商館跡復元整備計画

○ 「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」の世界遺産登録推進

○ 「九州・山口の近代化産業遺産群」の世界遺産登録推進

○ 路面電車軌道敷の一部緑化

【想定される主なプロジェクトのアイデア】

・世界遺産候補地周辺の整備

△ 二十六聖人殉教地の整備

・景観の保全・創造と夜間景観の整備

△ 松が枝暫定歩道橋撤去（旧香港上海銀行長崎支店記念館前）

△ 夜間照明・水際のライトアップ

△ 電車軌道緑化･屋上緑化（ヒートアイランド対策）

△ 景観計画による建物規制など

・平和や食をテーマとした交流・情報発信

△ 平和をテーマとした国際交流の推進

△ 長崎らしい食の提供と情報発信

④新たな視点での観光創造

【現在進行中の主なプロジェクト】

・産業遺産を活かした観光創造

○ 「九州・山口の近代化産業遺産群」の世界遺産登録推進（再掲）

【想定される主なプロジェクトのアイデア】

・産業施設や産業遺産を活かした観光創造

△ 産業遺産の活用整備

△ 産業・工場の景観の活用

・医療を活かした観光創造

△ 高度医療をテーマとした会議やイベント等の誘致

△ 高度な医療サービスの受入れ体制と国内外への情報発信

夜間照明・水際のライトアップ

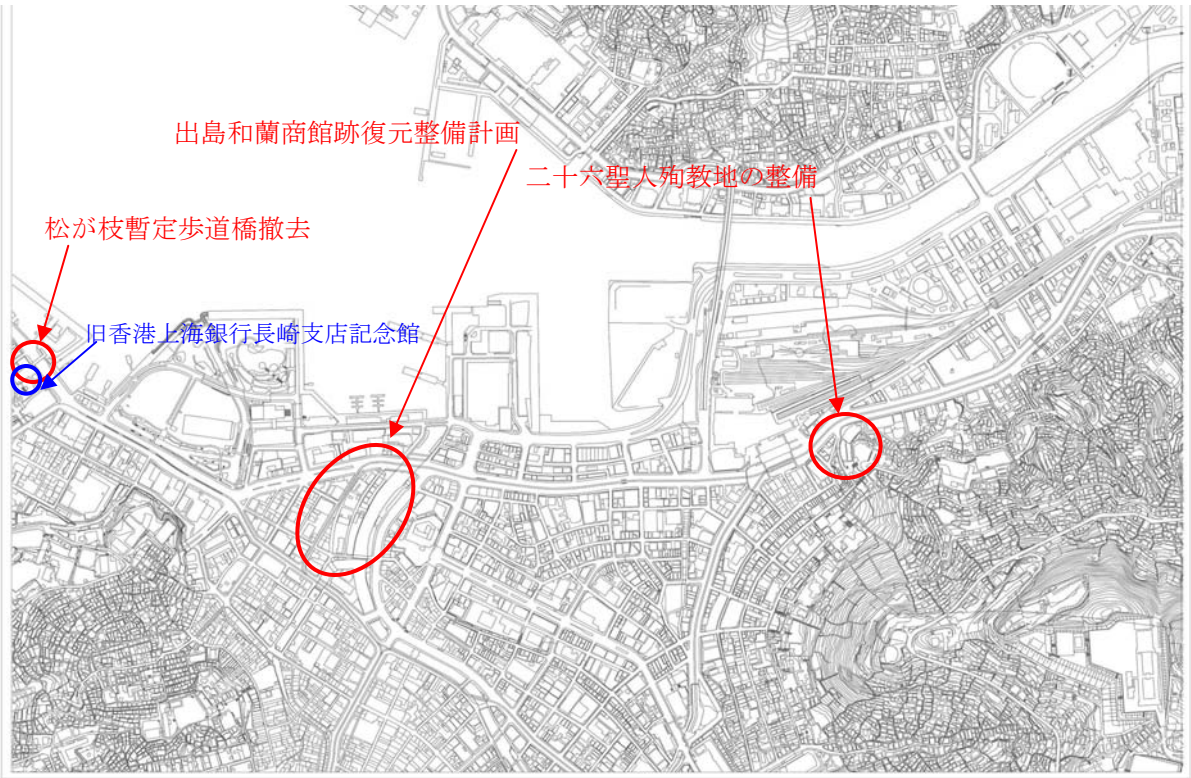
出島和蘭商館跡復元整備計画

松が枝暫定歩道橋の撤去

二十六聖人殉教地の整備

視点場の整備が必要

路面電車の軌道緑化



Ⅲ　観光資源と各拠点的地域を円滑に結ぶための「回遊性の向上」

⑤道路・公共交通・歩行者動線などのネットワーク整備と回遊コースの充実・開発

【現在進行中の主なプロジェクト】

・道路交通の円滑化

○ 都市計画道路浦上川線

○ ＪＲ長崎本線連続立体交差事業（再掲）

・環境負荷の低減のための自動車利用の抑制・適正化

○ パーク&ライド（社会実験）

【想定される主なプロジェクトのアイデア】

・利便性・快適性を向上させるための道路・公共交通の整備

△ 長崎湾・浦上川の東西の連携強化（旭大橋の低床化・路面電車延伸等）

△ 路面電車の駅部へのトランジットモール導入

△ 浦上川線沿いの水辺のプロムナードの延長整備（五島町への連結）

・観光客が快適に廻れる回遊ネットワークの整備

△ 松が枝から南山手への導線確保（松が枝暫定歩道橋撤去（再掲））

△ 駅構内インフォメーションセンター人材養成

△ 回遊ルートの整備・強化

（例：西坂（二十六聖人）～歴博・諏訪神社、中島川・寺町～風頭、丸山など）

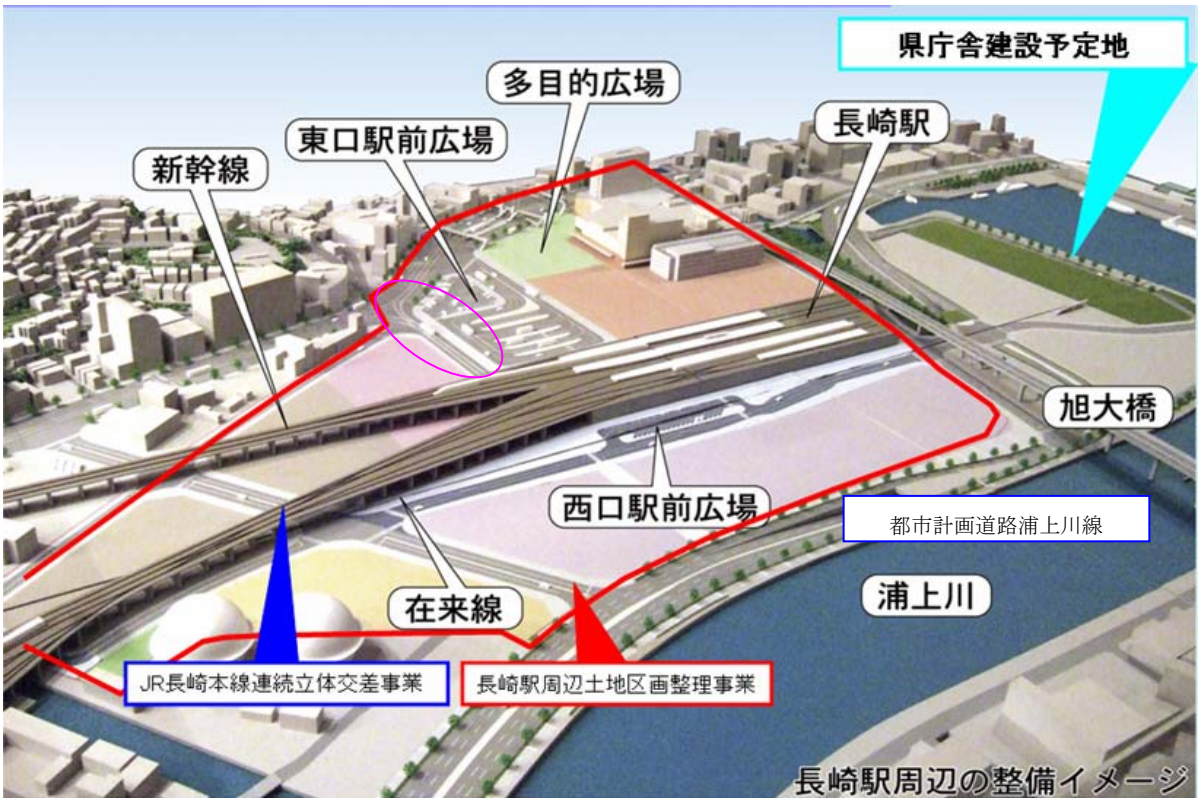
・環境負荷の低減のための自動車利用の抑制・適正化

△ パーク&ライド、路面電車の利用促進、モビリティ・マネジメント等

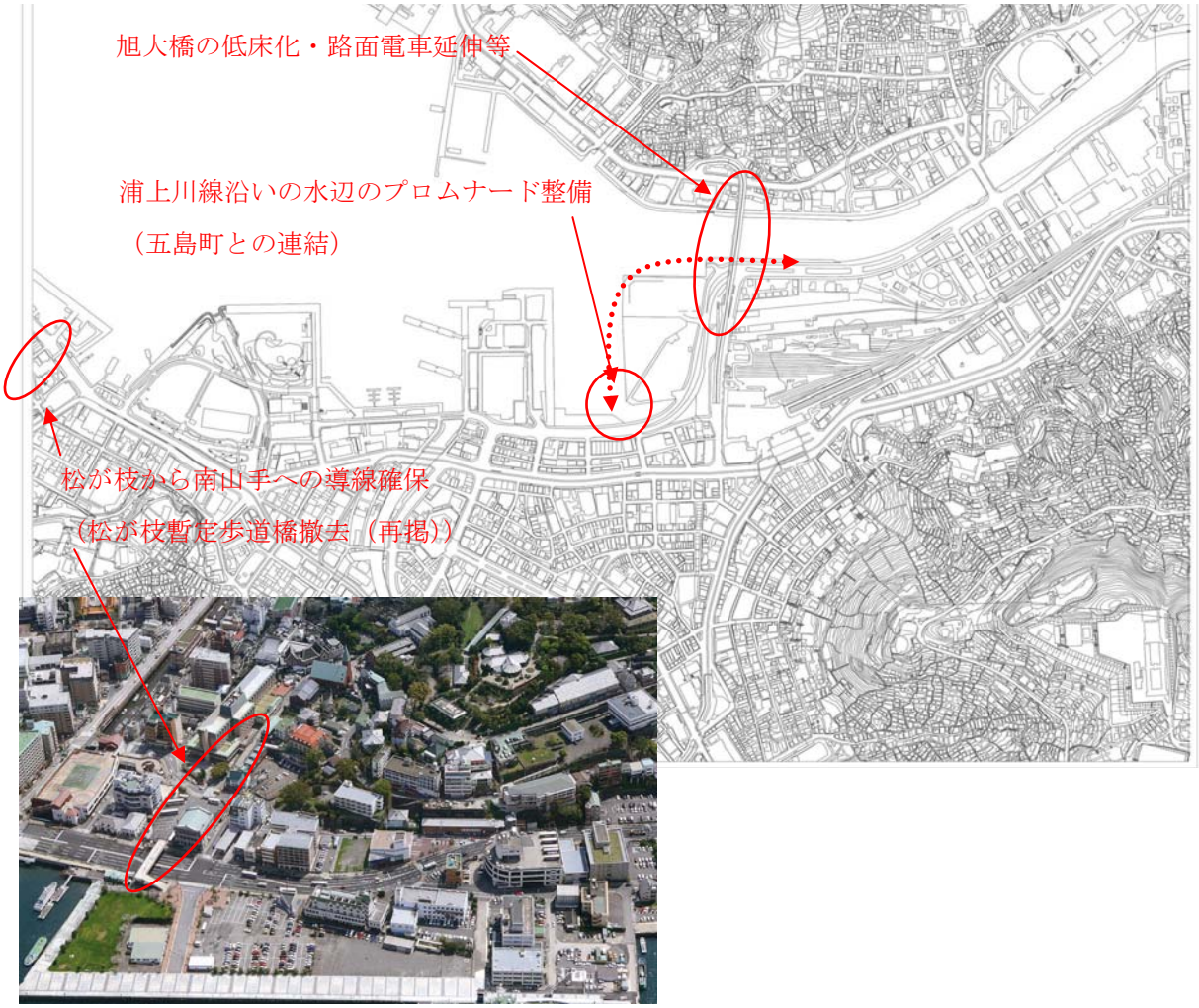
△ 電気自動車の導入検討

旭大橋の低床化（平面化）

モビリティ・マネジメント(Mobility Management)とは、ひとり１人のモビリティ（移動）が、社会的にも個人的にも望ましい方向に自発的に変化することを促す、コミュニケーションを中心とした交通政策です。このような取り組みは日本国内、海外で実施されている。
例えば、過度な自動車利用から公共交通（電車やバスなど）自転車等を適切に利用する方向

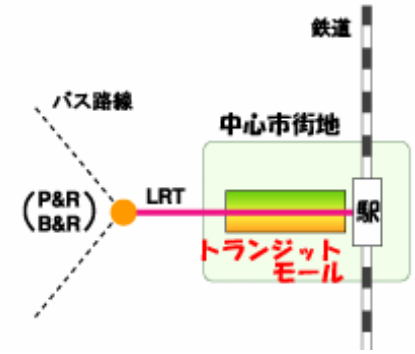


新長崎駅のトランジットモール



交通結節点でのＬＲＴの導入事例

都市軸への導入



高い加減速性能を生かし、安全にトランジットモールを走るLRT
（ドイツ　ブレーメン）

住宅地への導入（ドイツ ブレーメン）

ナント（仏）

ストラスブール（仏）

海外のパーク&ライド駐車場事例

LRTの終着駅の駐車場ビル

（フランス　ナント）

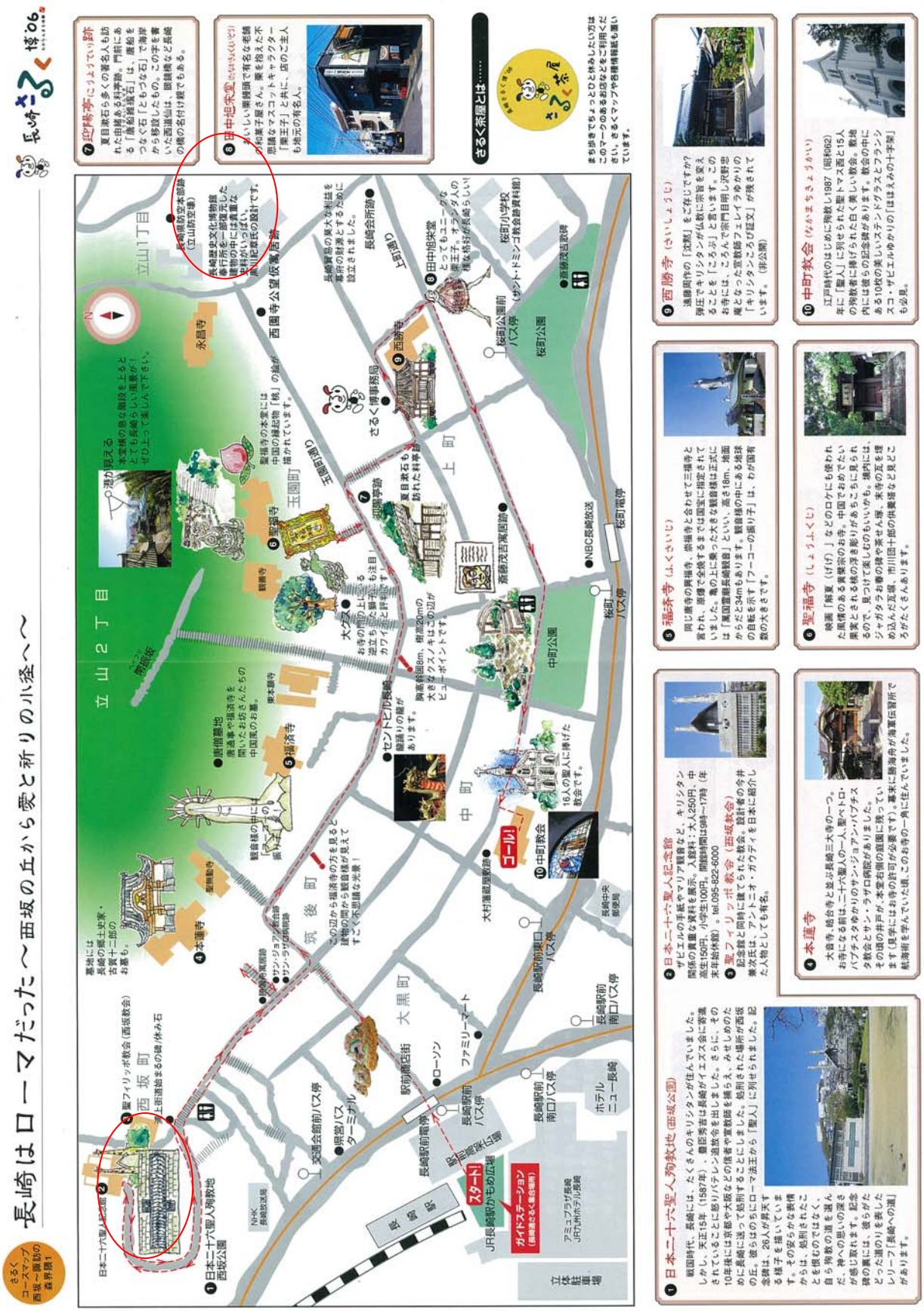
都心環状道路外側の平面駐車場

（フランス　ストラスブール）

都市名	LRT料金	パーク＆ライド料金
ストラスブール（仏）	約140円	約300～340円（LRTの往復料金込み）→実質駐車料金20～60円
オルレアン（仏）	約150円	約375円（LRTの往復料金込み）→実質駐車料金75円
フライブルグ（独）	約230円	パーク＆ライド利用者の駐車料金：無料
ホートランド（米）	約200円	パーク＆ライド利用者の駐車料金：無料

※国際空港～都心の場合約200円、都心部では無料

さるくコース１４（西坂～諏訪森界隈１）



さるくコースマップ　中島川・寺町～風頭界隈２　重文縁起よか界隈 ～寺町巡礼～

長崎さるく博06

1 黄檗宗 東明山興福寺
元和6年（1620）明僧・真円が開創。わが国最初の黄檗禅宗の唐寺。通称「南京寺」。雄大な朱色の山門により「あか寺」として親しまれています。二代目の唐僧・黙子如定は眼鏡橋を架けたことで有名。三代目逸然は隠元禅師を招きました。隠元禅師は隠元豆の他、胡麻豆腐やダイニングテーブル等多彩なものを伝えました。

山門（県指定有形文化財）
長崎で一番の大きさ。現在の山門は、元禄3年（1690）に再建。原爆の影響を受けましたがその後復元。扁額は隠元禅師の書です。

大雄宝殿（国指定重要文化財）
寛永9年（1632）黙子如定が建立。その後、暴風で大破しましたが、明治16年（1883）再建。氷裂式組子の丸窓、アーチ型の黄檗天井等が珍しい。屋根上の瓢瓶は火除けの意味があります。

中島聖堂遺構大学門（県指定有形文化財）
長崎聖堂は日本三大聖堂の一つ。正保4年（1647）創設。正徳元年（1711）、中島川のほとりに再興し、中島聖堂と呼ばれました。昭和34年（1959）に移築。「学問の神様」孔子にあやかって、今でも合格祈願に訪れる人が多い。

2 真言宗 医王山延命寺
元和2年（1616）龍宣が開創。長崎四国八十八ケ所霊場巡りのスタート地点で、山門の扉は長崎奉行所立山役所の門を移築したといわれています。

3 日蓮宗 光栄山長照寺
寛永8年（1631）日与が開創。寺院と最上位稲荷殿、護国殿の3つが同じ敷地内にあります。後山には江戸時代の天文学者・西川如見の墓（市指定史跡）等があります。

4 曹洞宗 海雲山晧台寺
慶長13年（1608）亀翁が開創。元和元年（1615）現在地へ。長崎三大寺の一つで、後山の墓域は広大。松田雅典の墓、楠本タキ・イネの墓等、要人の墓が数多い。

5 浄土宗 正覚山大音寺
慶長19年（1614）伝誉が開創。寛永15年（1638）現在地へ。晧台寺、本蓮寺と並んで長崎三大寺の一つ。市指定天然記念物のイチョウ、クロガネモチがあります。

6 浄土真宗本願寺派 大谷山大光寺
慶長19年（1614）慶了が開創。万治3年（1660）現在地へ。本堂の10枚の襖絵は京都の狩野派の画人・森陽信の作。金箔をバックにした濃艶な彩色が素晴らしい。

7 黄檗宗 聖寿山崇福寺
寛永6年（1629）長崎在留の福州人が故郷から僧超然を招いて創建。多くの福建省出身者が帰依し「福州寺」とも呼ばれます。明暦3年（1657）唐僧即非如一が渡来し開山となりました。2つの国宝を筆頭に重要文化財等が豊富に揃い、建築様式等もわが国では他に類をみません。

第一峰門（国宝）
四手先三蘭栱と呼ばれる複雑巧緻な詰組に目をうばわれます。扁額は即非禅師の文字。門扉の青い蝙蝠と牡丹の花も縁起物です。

大雄宝殿（国宝）
正保3年（1646）何高材の寄進により創建。長崎市に現存する最古の建物。1階の黄檗様式、2階の和様式が独特。堂内の扁額や左右の柱の聯額は即非禅師・千呰禅師の書（県指定有形文化財）。殿内の「釈迦三尊（県指定文化財）」の体内から銀製の五臓、布製の六腑が昭和10年（1935）頃発見。金属製の内臓をもつのは国内唯一最古のものと言われます。

媽祖堂（県指定史跡）
現在の建物は寛政6年（1794）再建。基壇上の勾欄、前廊の黄檗天井等の様式と和様の細部様式が混在。

媽祖門（国指定重要文化財）
文政10年（1827）再建。八脚門3間3戸形式で、扉の前面は黄檗天井。背面は山形天井。媽祖堂の門は数少ない遺例です。

護法堂（国指定重要文化財）
向って右が開羽を祀る開帝堂。左が天王殿（韋駄殿）、中央が観音堂です。享保16年（1731）建立。

鐘鼓楼（国指定重要文化財）
鐘楼と鼓楼を兼ねています。梵鐘・太鼓の音を拡散するために丸窓・火燈窓等の開口部が多くあります。

さるく茶屋とは……
まち歩きでちょっとひと休みしたい方はこのマークのあるお店などをご利用ください。さるくマップや各種情報紙も置いています。

さるく見聞館とは……
今ではあまりお目にかかれない道具や珍しいもの、仕事場の一角などを見ることができるお店や施設です。
（お店の定休日や時間帯によっては見学できない場合あり）

龍馬が見上げた長崎の空 ～風頭から亀山社中跡、そして寺町へ～

❶上野家墓地（上野彦馬）

上野彦馬は文久2年（1862）上野撮影局を開設し、わが国初の商業写真家といわれる人物である。坂本龍馬や大浦慶等の著名人や風景を撮影し、多くの子弟を教育した。西南戦争に従軍し記録を残すなど、わが国報道カメラマンの草分け的存在でもある。

❷坂本龍馬之像

坂本龍馬は、天保6年（1835）土佐高知城下の郷士坂本家に生まれた。

やがて慶応元年（1865）亀山社中を組織、慶応2年には龍馬の斡旋により薩長同盟が結ばれ、その翌年には清風亭で後藤象二郎と会見し、海援隊を結成した。激動の時代、龍馬の活躍は続き、新国家体制の構想を示す船中八策を起草し、その後大政奉還が実現された。

この銅像は、「龍馬の銅像建つうで会」が建立、平成元年5月21日除幕式が行われた。

長崎在住の彫刻家・山崎和國氏制作。台座碑文は作家・宮地佐一郎氏。龍馬の実像に最も近い像と高い評価を受けている。

❸司馬遼太郎「竜馬がゆく」文学碑

船が長崎の港内に入ったとき、竜馬は胸のおどるような思いをおさえかね、「長崎はわしの希望じゃ」と陸奥陽之助にいった。「やがては日本回天の足場になる」ともいった。（司馬遼太郎『竜馬がゆく』より）

この碑は「亀山社中ば活かす会」建立。作家・司馬遼太郎氏の長崎における足跡の確認と、その文学顕彰を目的に、全国に先がけて建てられた。平成10年2月1日除幕。

風頭公園内

❹亀山焼窯跡

亀山焼は文化元年（1804）大神甚五平等により開窯された。当初はオランダ船に販売する水瓶を製作していたが文化10年（1813）から大神甚五平の単独経営となり、白磁に切り替え、染付けの上質なものを製作した。長崎奉行等の援助もあり、安政年間には御用陶器所になったが、慶応元年（1865）には閉窯となった。

亀山焼木下逸雲筒付煎茶碗
（長崎歴史文化博物館所蔵）

❺若宮稲荷神社（伊良林稲荷神社）

10月14、15日の大祭に奉納される「竹芸（市指定無形民俗文化財）」は有名である。白狐に扮した若者が、2本の青竹約10mの上で幟子にのって妙技をみせる。竹芸は稲荷神社の使いの狐が若宮様の神徳を喜んで、裏の竹やぶで遊ぶ様子を表現したものだという。

❻良林亭跡

草野文吉は、文久3年(1863)にわが国最初の西洋料理専門店を開業した。当初は良林亭と称し若宮神社の近くに開店した。その後場所を移して新築し、名称も「自遊亭」、「自由亭」と改称した。明治12年(1879)にはグラント元アメリカ大統領も立ち寄った。旧自由亭の建物は下の写真のように現在グラバー園内に移築されている。

❼亀山社中跡

慶応元年（1865）坂本龍馬とその同志により結成された「亀山社中」の跡である（慶応3年海援隊となる）。亀山社中の構成員は土佐・紀州などの脱藩浪人で、陸奥陽之助、近藤長次郎、沢村惣之丞など、長崎からは小曽根英四郎が参加した。

亀山社中は、海運業、通商、商業活動の他に、薩長同盟など倒幕運動にも参画した。幕末・維新史において重要な役割を果たした。

■公開日時／土・日・祝(12/29～1/3除く)
10～12時、13～15時

❽龍馬通り

寺町通りの深崇寺と禅林寺の間から亀山社中跡を経て風頭公園へ至る小径の名称。亀山社中の同志たちが闊歩したこの道は、地元の人や観光で訪れた旅人たちに親しまれている。長崎らしい坂道が続くこの歴史探訪路には手づくりの案内板やホッと一息つける休み石があり人々の心を和ませる。

幕末の志士たちに想いを馳せ、うつりゆく風景を楽しみながらゆったりと歩いてみてはいかがでしょうか。

❾木下家墓地（木下逸雲）

木下逸雲（1799～1866）は、八幡町乙名職を勤めた医師で絵画・書道に通じ南画興隆の基礎を築いた。

慶応2年（1866）江戸から帰る途中に玄界灘で遭難した。

❿光永寺「福澤諭吉ゆかりの寺」

慶長19年（1614）慶西が創建。後に現在地へ移転した。また、安政元年（1854）当時19歳の福沢諭吉が約1年間宿泊し、蘭学を学んだ場所であり、明治12年（1879）県議会が初めて開会された場所でもある。

＊福澤先生使用之井戸碑（出来大工町44）

⓫光源寺「産女の幽霊」ルート外

寛永8年（1631）松岭が開創。同寺には「産女（うぐめ）の幽霊」という民話がある。土葬された女が子を産み、幽霊となって夜な夜な飴屋から飴を買い、育てるという。

＊年に一度、幽霊の像がご開帳される。8月16日。

さるくコース７（丸山界隈２）

さるくコースマップ　丸山界隈2

高島秋帆旧宅跡から大徳寺へ～江戸、明治の風情が残る奥丸山～

長崎さるく博'06

さるくコツ　町人や遊女が信仰した社に参拝
鎮守神様巡礼

ご承知の通り、お稲荷さんといえば商売繁昌の神様です。実は、船からの荷揚場や花街として栄えたこのコース周辺には町々の鎮守神はもとより、花街時代の屋敷神など稲荷社が数多く見られるのです。これらの社を辿りながら奥丸山をさるくのもおすすめですよ。

旧花街の稲荷社が点在しています

マップ内、玉泉神社は寄合町、楠稲荷神社は船大工町、梅園身代り天満宮は丸山町、大崎神社は本石灰町の鎮守神。写真は梅園身代り天満宮の稲荷社。

見どころはココ！
よくよく見ると花街時代の風景が浮かび上がる？

1　長崎で川より狭く溝より広い流れをエゴといいます。三島屋の下を流れ花月に通じるエゴは見事な石張りで、とても風情があります。

2　外壁の意匠は横綱と相撲の軍配！　実はこの建物よこづなやという遊廓跡なのです。

3　空き地になって発覚！花街時代の遊廓の屋根跡です。

1　エゴ　ルート外
2　よこづなや跡
3　遊廓屋根跡

1　エゴの底面は五角形

3　くっきりと残る屋根跡

おすすめビューポイント
江戸時代の情緒を今に伝える景観

1　茂木街道の途中で立ち止まり左後方を眺めると、寺町界隈の寺社の甍群が望めます。昔の人もこうして長崎の町と名残を惜しんだのでしょうか。

2　壊れたかつての石を積み直した石垣は、中小島側から見ると迫力があります。

3　三島屋の大屋根には遊廓時代の風情が漂っています。

1　寺社の甍（いらか）群
2　高島秋帆旧宅の石垣
3　三島屋の大屋根

1　崇福寺や八坂神社、清水寺などを望む

3　裏通りから見るとこんなに大きな屋根

1『長崎茂木街道ここに始まる』の碑

江戸時代、長崎主要街道六口の1つとして重要な役割を果たした茂木街道の出発地点です。この石碑横の案内板をチェックして出発しましょう。

2 光寿山正覚寺

キリシタン全盛期の慶長9年（1604）、長崎奉行の助力により思案橋近くに建てられた最初の寺。境内には立派な陰陽石が立っています。

正覚寺の陰陽石

3 高島秋帆旧宅跡

高島秋帆は代々町年寄の高島家に生まれ、わが国最初の西洋砲術家として称賛された人物です。秋帆は天保9年（1838）、本宅（現万才町）の類焼後、雨声楼（うせいろう）と呼ばれたここに4年半住みました。邸内には砲術練習場跡や砲痕石、吉田松陰が秋帆の子・浅五郎を訪ね上り下りした石段があり、当時の名残をとどめています。国指定史跡。

4 福屋跡

福屋は日本における西洋料理店のさきがけといわれ、辛亥革命を果たした孫文など多くの外国人がここで食事をしました。

5 玉泉神社

子ども達をお守りするというお地蔵様があり地元で親しまれています。鳥居や手水鉢に江戸時代の奉納日が刻まれているので確認してみましょう。

さるく茶屋とは……

まち歩きでちょっとひと休みしたい方はこのマークのあるお店などをご利用ください。さるくマップや各種情報紙も置いています。

さるく見聞館とは……

今ではあまりお目にかかれない道具や珍しいもの、仕事場の一角などを見ることができるお店や施設です。
（お店の定休日や時間帯によっては見学できない場合あり）

12 梅香崎神社（天満宮）

籠町の氏神様で、大徳寺と共に変遷してきた神社です。大徳寺の遺物である拝殿の大梁や正殿の松竹梅の彫刻、床下の斗組による支えは必見です。

11 大徳寺公園（大徳寺跡）

伊勢町に創建された大徳寺は宝永5年（1708）、この地に移され、明治元年（1868）に廃寺となりました。長崎七不思議に「寺もないのに大徳寺」と歌われていますが、それはこうした経過があってのことです。この公園のシンボルは県下第一のクスの巨木。樹齢は推定800年前後といわれています。

10 菊水の梅ヶ枝焼餅

明治期のレトロな看板が目印。昔ながらの焼き方で、地元の人々に人気の梅ヶ枝焼餅です。大きなお餅を食べながら、公園で一服がおすすめです。

9 楠稲荷神社

急な坂段の上にある船大工町の鎮守神。昔から大クスの木の傍らにあるこの神社に祈願すると商売も大きく繁盛するといわれています。

8 勅使坂

丸山公園から大徳寺公園までのなだらかな坂道。天皇の使い（勅使）が梅ヶ崎招魂社へ参詣するため整備され、以来こう呼ばれるようになりました。

7 中の筑後屋跡（青餅亭跡）

この一帯はかつての遊廓中の筑後屋跡で、敷地の一部に設けたお茶屋が現在の中の茶屋です。この場所には遊廓青餅亭がありました。昔は丸山に名物の青餅を売る店があり、餅のようにくっついて離れないことから長崎弁で恋人を青餅といったそうです。

6 三島屋

元は遊廓。飾り格子や手すりなどの艶やかな細工が当時の様子を彷彿とさせ、玄関口「貸室有☑」の貼紙が何ともいえない風情を漂わせています。